令和8年度介護予防活動普及展開事業

介護予防施策担当者研修会

事務局資料

2026年9月7日（月）13:00-17:00

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

株式会社NTTデータ経営研究所

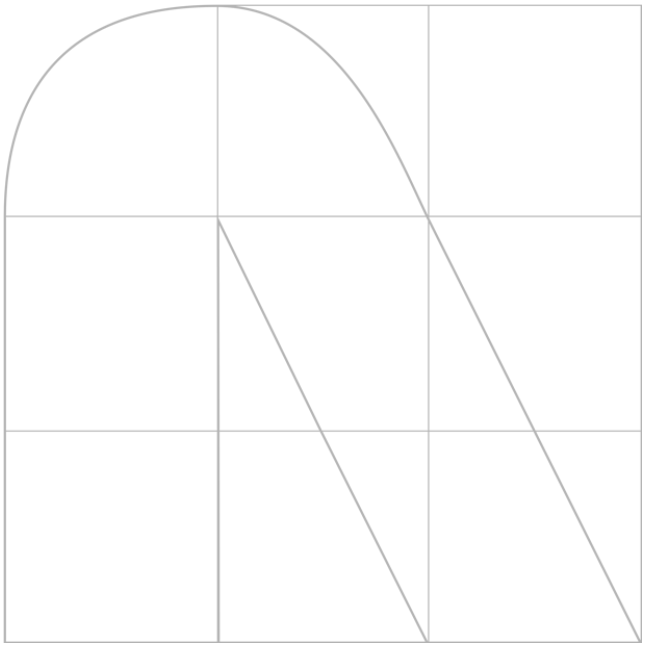
介護予防施策担当者研修会について（当日のプログラム）

対象	全国の都道府県・市町村の介護予防施策担当者等
到達目標	◆ 令和8年度の介護保険法改正とわがまちの実情を踏まえ、第10期介護保険事業計画に盛り込む取組を根拠を持って庁内外の関係者に自分の言葉で語れる状態を目指す。 1．令和８年度介護保険法改正の概要（介護予防・地域ささえあいサポート拠点の制度化等）を理解する。 2．わがまちの将来像、地域類型（2040年を見据えたまちの実情）に応じた介護予防戦略の必要性を踏まえ、庁内外の関係者とどのように連携するかイメージし、建設的な対話に踏み出せる。

時間	タイトル	担当	実施概要
13:00-13:05（5分）	• 開会の挨拶	厚生労働省、事務局	• 開会の挨拶、研修の位置づけと流れの共有
13:05-13:20（15分）	• 行政説明	厚生労働省	• 一般介護予防事業等における動向について
13:20-14:30（70分）	• 事例紹介	神奈川県川崎市 新潟県三条市 北海道京極町	• 地域類型（大都市、一般市、中山間・人口減少地域）ごとの、連携・協働で困難を乗り越えた取組の共有（1自治体20分×３自治体） • 質疑応答（10分）
14:30-14:35（5分）	• 休憩		
14:35-15:10（35分）	• 講義	桃山学院大学　社会学部ソーシャルデザイン学科（福祉）准教授 田中明美　様	• ３つの事例の振り返り • 各自治体の実情を踏まえた第10期介護保険事業計画の策定と介護予防施策の展開のポイント
15:10-16:59（109分）	• ワーク	参加者、事務局、講師	• 建設的な対話に向けた一歩を踏み出せる準備のためのワーク ※ 詳細はp3以降を参照
15:59-17:00（1分）	• 閉会、事務連絡	事務局	• 事後アンケートのお願い

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク



© 2025 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

3

ワークの流れ

- ワークを通じて、わがまちの将来像、地域類型（2040年を見据えたまちの実情）に応じた介護予防戦略の必要性を踏まえ、庁内外の関係者とどのように連携するかイメージし、建設的な対話に踏み出すことを目指します。

ワークの流れ	時間	実施内容
Step0：チェックイン・アイスブレイク	10分	• グループに分かれて、お互いを知る • ファシリテーターを決める
Step1：個人ワーク	10分	• 本日の講義を踏まえて、10期に注力したいこと、連携したい関係者について、改めて考える
Step 2：グループ内共有	55分	• 個人ワークで実施したことをグループ内で共有する
Step3：グループ間共有	14分	• ファシリテーターが、グループ内で共有された意見について発表する
Step4：個人ワーク	5分	• 他自治体の発表なども踏まえ、「建設的な対話に向けた一歩」を検討する
Step5：全体共有と総括	15分	• 「建設的な対話に向けた一歩」の全体共有と講師による総括

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク Step0（10分）：チェックイン・アイスブレイク

- グループ（ブレイクアウトルーム）に分かれ、自己紹介・地元のおすすめ・計画策定における悩み等を共有（1人90秒）
- 本日のファシリテーター（司会）を決める（1分）

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク Step 1（10分）：個人ワーク

- 本日の講義を踏まえて、10期に注力したいこと、連携したい関係者について、改めて考え、以下のシートに整理する。（事前課題の内容から変わってもOKです）

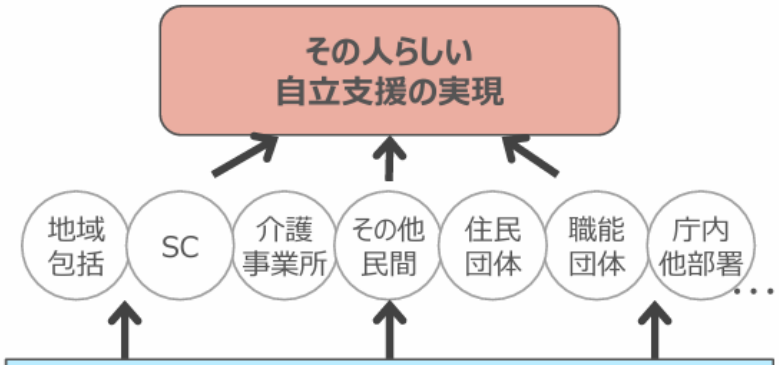
観点	Step1：最初の記入
①10期に何に注力したいか？	
②なぜ取組みたいのか？ **※視点の例：わがまちの将来像／誰の・何のための取組か**	
③誰と進めたいか **※視点の例：関係者の立場・専門性／普段の業務／関心／相談した際に想定される反応**	
④どのように進められるか **※視点の例：既にある取組で活かせそうなもの／関係者にとってのメリット**	

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

（参考）関係者との対話のポイント（Step1に取り組むためのヒント）

庁内外の関係者と意識を合わせ、行動の方向性を統一する

■保険者は目的に向かって関係者と協議



- ✓ **保険者の軸（明確な目的・課題認識）**を持つ
- ✓ お願いよりも**傾聴**する
- ✓ 多様な関係者の**立場や考えを理解**
- ✓ 各者の**強みを活かす**・意味づけする
- ✓ **ウィン・ウィン**の関係を築く

※共感ポイントや行動原理は相手によって異なるので**アプローチの仕方は変わる**

保険者に“軸”があることが大切

○ 関係者との協働にあたり、保険者の“こうしたい”という**軸（明確な目的・課題認識）を持つことが大切**です。

○ 委託先に事業を任せきりにするのではなく、**保険者が司令塔**となり、**委託先を含む関係者をマネジメントする姿勢**が大切です。

お願いより聞く姿勢で相手を理解する

○ 相手が何に問題意識を持っているか、何なら耳を傾けてくれるかを理解するために、**お願いより先にまず話を聞き、相手の考えを理解しましょう**。

各者の強みを活かし、意味づけする

○ 新しいことをお願いするより、**今やっていることを少し工夫いただくという視点**で相手の敷居が下がります。

○ 住民、福祉団体、営利企業、庁内担当課等、**相手の考え、メリット、強み、悩み等を勘案して相談の仕方を変えましょう**。

（出典）介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の効果的な推進方法に関する研究事業（令和元年度老健事業　株式会社NTTデータ経営研究所）

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク　Step 2（55分）：グループ内共有

- 個人ワークの結果を共有する。（1人3分）
- 共有した内容について、グループ間でコメントする。（1人2分×3~4自治体）

× 5 自治体

（コメントの観点　※いずれの観点でも可）

良いと思った視点や考え・納得感があった、 わかりやすかった点、 腹落ちしなかった・補足してほしい点

- 意見交換の中で気づいた内容を以下にメモする。

自治体名 （同じグループになった自治体の名を記載）	Step2：発表後の意見交換でのコメントや、 他自治体の事例の中で気づいたこと

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク　Step 3（14分）：全体共有と講師からのコメント

- 全体のルームに戻り、ファシリテーターがグループ内で共有された意見について発表する（３～４グループ程度）
- グループワークの結果を踏まえ講師からコメント

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク Step 4（5分）：個人ワーク

- 「建設的な対話に向けた一歩」を踏み出す準備をするため、他自治体の発表も踏まえ、「連携していきたい相手とどう対話を進めるか」、「対話に向けて準備していきたいこと」を整理する。

連携していきたい相手とどう対話を進めるか？	
対話に向けて準備していきたいこと	

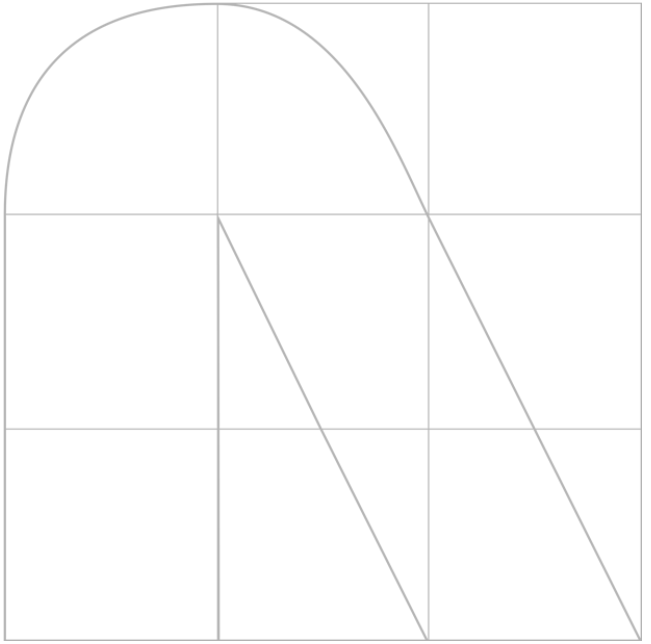
© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

ワーク　Step 5（15分）：全体共有と総括

- 「建設的な対話に向けた一歩」について、いくつかの自治体から発表いただく（発表者は講師が指名　3自治体程度を想定）
- 研修全体を踏まえ、講師から総括をいただく

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

事前課題ワークシート



© 2025 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

12

自治体名	
所属	
氏名	

第10期計画で検討中の介護予防戦略・施策の概要

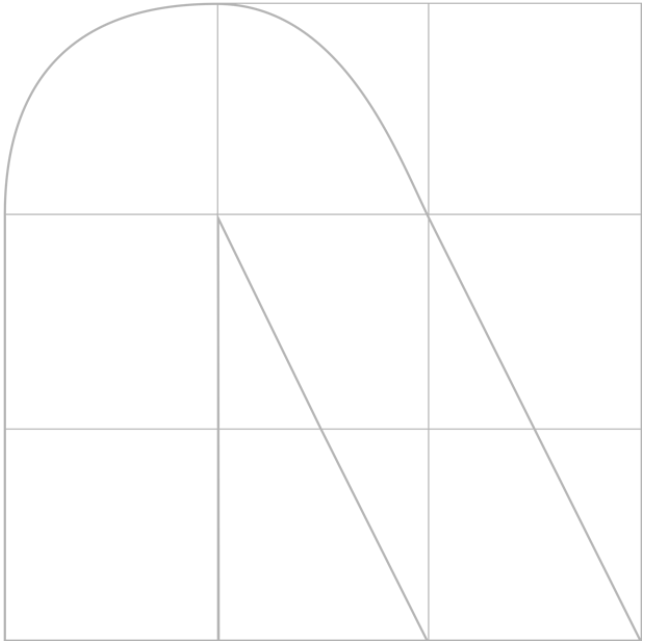
- 第10期計画に盛り込みたいと考えている**介護予防に関する取組等のうち、関係者との合意形成や体制構築を目指すものについて**、現時点で検討している内容を書いてください。アイデア段階のものでも構いません。

介護予防に関する計画の基本理念と目標	
10期に盛り込む予定の介護予防に関する取組（事業）の名称、具体的な内容 ※ 介護予防に関する取組等のうち、関係者との合意形成や体制構築を目指すものを１つ選んで記載してください ※ 具体的な内容は箇条書き２～3点でも可	
取組の検討状況、関係者との合意形成状況	
課題意識を共有して事業を一緒にやっていきたい相手 ※ その方の所属、立場、専門性、普段どのような業務でご一緒されているか、取組において期待する役割、相手の方がどのような想いで業務に取り組んでいるか等をわかる範囲で簡単に整理してください。 ※ 複数人いる場合は複数人記載して下さい。	

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

事前課題ワークシート

以下の事前課題は任意です。



© 2025 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

14

わがまちの現状を把握する上で役立つデータ

- 以下は、わがまちの現状を把握する上で役立つデータの一例です。これらについて、「別紙ワークシート」に、わかる範囲で記入してください。ただし、提出は任意です。

<支援が必要な人に関するデータ>

確認ポイント	指標	比較の観点	指標の特徴	解釈の例 ※あくまで例示であることに留意	主なデータ取得先
支援を要する高齢者数は、今後どのように推移するか	**75歳・85歳以上高齢者人口（現在＋将来推計）**	時系列比較（推移）	増える 減る	経年で比較して・・・ 増える→支援ニーズが増える 減る→支援ニーズは減る	日本の地域別将来推計人口　令和５(2023)年推計（国立社会保障・人口問題研究所）
まちの高齢者は、どのような特徴があるか	**高齢独居世帯の割合**	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 高い→介護予防だけではなく見守りや生活支援のニーズも高い 低い→見守りや生活支援のニーズはそれほど高くない	見える化システム
要介護認定者には、どのような特徴があるか	**調整済み認定率（要介護度別）** ※要介護2以上高齢者の割合（健康寿命を維持できていない高齢者の割合）を確認	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 高い→介護予防が十分に機能していない可能性がある 低い→介護予防が機能している可能性がある	見える化システム
	調整済み新規要支援・要介護認定者の要介護度別割合 ※要介護2以上高齢者の割合（健康寿命を維持できていない高齢者の割合）を確認	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 高い→生活機能低下やフレイルが進行した段階まで捕捉できなかった人が多い 低い→進行する前の段階で捕捉できた人が多い	見える化システム

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

わがまちの現状を把握する上で役立つデータ

<支える体制に関するデータ>

確認ポイント	指標	比較の観点	指標の特徴	解釈の例 ※あくまで例示であることに留意	主なデータ取得先
まちの支え手の現状はどうか、今後どのように推移するか	**生産年齢人口（15歳～64歳の人口）1人あたりが支える65歳以上高齢者数（現在＋将来推計）**	時系列比較（推移）	増える 減る	経年で比較して・・・ 増える→現役世代の負担が増えている 減る→現役世代の負担が縮小している	日本の地域別将来推計人口 令和５(2023)年推計（国立社会保障・人口問題研究所）
	地域包括支援センター職員１名あたりが担当する介護予防ケアマネジメント件数 ※地域包括支援センターで介護予防ケアマネジメントを担当する職員数÷介護予防ケアマネジメント実施件数で算出	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 高い→センター職員の負荷が高い（つなげられている高齢者が多い） 低い→関与時間を十分確保できている（つながっていない高齢者が多い可能性も）	介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査 ※「地域包括支援センターで介護予防ケアマネジメントを担当する職員数」は自治体独自の調査で把握
通いの場やサービスCの利用にはどのような特徴があるか	**介護予防に資する住民主体の通いの場の参加率** ※参加率：通いの場への参加者実人数÷65歳以上人口で算出	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 高い→通いの場が多くの高齢者に認知されている／低い→通いの場まで移動できない高齢者がいる・担い手がいない・通いの場が少ない	介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査
	介護予防ケアマネジメントを受けた人のうち、実際にサービスCを利用している割合 ※割合：サービスCの利用者実人数÷介護予防ケアマネジメント件数で算出	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 高い→サービスCの対象者の選定・説明・動機づけがうまく機能している 低い→サービスCへの接続まで考えたケアマネジメントが行われていない可能性	介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

わがまちの現状を把握する上で役立つデータ

<費用に関するデータ>

確認ポイント	指標	比較の観点	指標の特徴	解釈の例 ※あくまで例示であることに留意	主なデータ取得先
住民にどの程度の経済的負担がかかっているか	**必要保険料月額** **（過去5期分（15年分）の変化）**	他地域比較	高い 低い	他地域（同規模市区町村）や全国平均、都道府県平均と比較して・・・ 増えている→被保険者（住民）の保険料負担が大きくなっている（背景として、要介護度の高い高齢者やサービス利用者が多い可能性） 減少している→被保険者の保険料負担が抑えられている（背景として、重度化防止・介護予防が一定機能している可能性）	見える化システム

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

任意提出

わがまちのデータから気づいたこと

- データを確認できた方については、第10期計画に盛り込みたいと考えている介護予防に関する取組等のうち、関係者との合意形成や体制構築を目指すものについて、集めたデータを活用して取組の必要性を整理してください。

データから読み取る、取組の必要性	

© 2026 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.


NTT DATA
株式会社NTTデータ経営研究所
Lighting the way
to a brighter society